

都内における日常的に利用される剣道場について  
 剣道の稽古環境に関する研究 - その 1 -

On the daily use facilities of KENDO in Tokyo  
 Study on the practice environment of KENDO -part1-

○中田光<sup>※1</sup> 矢野 裕芳<sup>※2</sup> 渡辺富雄<sup>※3</sup>  
 Hikaru Nakada Hiroyoshi Yano Tomio Watanabe

KENDO, one of the traditional martial arts of Japan, is emphasis on courtesy and manners. Currently, 52 countries and regions participated in the International Kendo Federation, the competition of the world population exceeds 2.6 million people. On the other hand, in Japan, the competition population is declining. In that population decline is expected to improve the quality of training environment surrounding the KENDO in Japan in the future. In this study, we aimed at understanding the current practice environment by researching KEDNO-JHO is used on a daily basis, leading to improved quality in the future.

keyword : Martial arts facilities, Practice environment, competition population, Tokyo, Private

1. はじめに

剣道は、剣道具を装着し竹刀で対面で技を競い合う日本の伝統武道である。現在では国際剣道連盟（以下 FIK）（※1）が発足し、国際的な競技となっている。FIKには現在40カ国が参加しており、競技人口は260万人（内日本が130万人）である。剣道のオリンピック競技化が唱えられているが、全日本剣道連盟は剣道の持つ精神性・武道的特性が失われることを懸念してこれを拒んでいる。一方で国内の競技人口は減少しており（図1）、都内において剣道を始める際に最初に取得する初段の受審者数はこの30年でおおよ半数となっている。今後は人口減少も予測される中で競技人口の拡大よりも剣道を取り巻く環境の質の向上が期待されるのではないかと。

2. 武道場について

表1は東京都において、一般の営利目的の道場が利用する施設の割合を示したものである。これによると半数近くが他のスポーツにも使われる汎用的な体育館が利用されている。剣道の床面の重要さは多くの既往研究で明らかとなっており、池田（参考文献1）によるとウレタン塗装された床で稽古をする選手がサポーターやテーピングを使う割合は、無塗装の床で行う選手より高いことから、ウレタン塗装の床は剣道には負担が大きいと言える。武道場の起源である武徳殿では無垢材が利用されていたことから現在でも剣道専用にて建てられた施設は無垢材が基本となっている。他にも剣道では礼儀・作法が重要であり、稽古場には上座・下座などが存在し神棚や空間が基準となっていた。

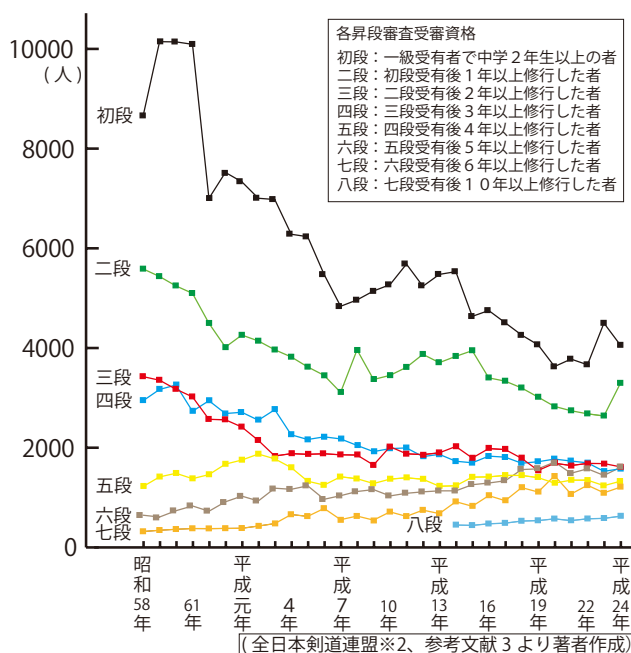


Fig1. Changes of SHODAN examinees in Tokyo

Tab1. Percentage of facilities being used in practice in Tokyo

道場団体	学校体育館	私設道場	警察道場	公共体育館	複数	刑務所道場	不明
126 (100%)	56 (44.4%)	32 (25.4%)	30 (23.8%)	5 (4%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)

(一般財団法人 全日本剣道道場連盟※3より著者作成)

武徳殿

武徳殿は大日本武徳会（以下武徳会）によって建てられた武道場である。武徳会は明治28年に武芸振興を目的として結成され、国内と当時占領下にあったアジア各国に支店を設け、武道場を建設する。武徳殿の形式は寺社建築の伝統的な様式を持っており、内部の空間も列柱と廻廊を設けることや天皇の御座所として玉座が設けられるなどの形式を持っていた。各自治体もこの武徳会が作った武道場を参考にして武道場をつくり武徳殿と名付けた。第二次世界大戦後の昭和21年、武徳会は連合軍総司令部より解散の命を受け、武徳殿をはじめとする関係施設は駐留軍に接収された。武徳会が関わり現存している武徳殿は、京都旧武徳殿、佐賀武徳殿、宮崎武徳殿、山口武徳殿、奈良武徳殿、和歌山武徳殿、山梨武徳殿、長野武徳殿、滋賀武徳殿の9施設である。（参考文献2より）

※1：日大理工・院（前）・建築  
 ※2：日大理工・上席客員研究員・建築  
 ※3：日大理工・教員・建築

Graduate Student, Dept. of Arch., CST., Nihon Univ.  
 Senior Visiting Scholar, Dept. of Arch., CST., Nihon Univ.  
 Associate Prof., Dept. of Arch., CST., Nihon Univ.

3. 研究目的・対象・方法

道場を設置者別に分けると①学校武道館（教育を目的とする）、②職場武道館（警察では職務遂行のため）、③地域武道館（公共施設で地域の為のもの）、④営利武道館（私的に建設され運営されるもの）となっている。今回の調査では④に区分され、小規模で日常的な稽古場として利用され剣道専用の施設である私設道場を研究することで、今後の剣道を取り巻く環境向上の手がかりとすることが目的である。研究方法はインターネット、文献、アンケート、実施調査にて行う。

4. 事例調査

私設道場である昭武館道場で実施調査を行った。伝統的な武道場では長手の方向で入口と神棚が向き合い、そのまま神棚側が上座となる例が多かった。昭武館道場においては、入口の正面に神棚が設けられているが、上座は北面となっていた。その次に神棚側が位の高い位置となっており、例えば稽古の始まりと終わりの礼をする際には、南側に門下生達は座るが、高段者のものから順に神棚側から座っていた。

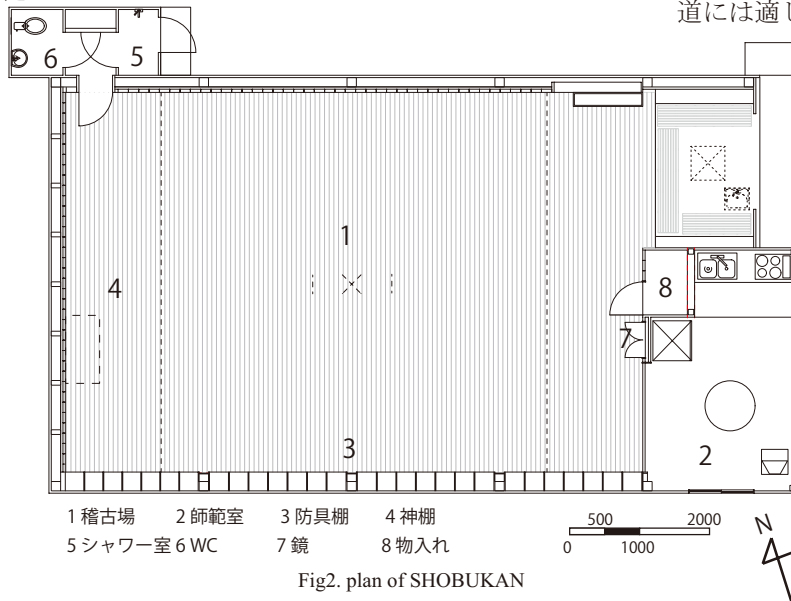


Fig2. plan of SHOBUKAN

床下の構造は現在では一般的な束立て構造となっていた。昭武館道場は住宅地にあるため、防振ゴムによって剣道の踏み込む際の衝撃を適度に吸収するだけでなく踏み込みの音が響かないようしていた。剣道は防具を装着するため、現代の武道場では安全に開口を設けることが重要である。伝統的な道場では稽古場と廻廊が列柱により区分けされている為、比較的安全に廻廊に開口を設けることができ、風通しが良好である。昭武館では床面より 2m までは板壁となっており、開口はその上に設けることによって安全に風通しを確保していたが、閉塞感を感じる空間となっていた。

5. まとめ

- ①少なくとも都内の競技人口は減少しており、剣道始めるものが最初に取得する初段の受審者数は半数となっている。
- ②都内には営利道場（必ずしも営利を目的としない）が 126 団体あり、そのうち半数近くが剣道専用ではない、兼用体育館を利用していた。
- ③実施調査を行った道場では、伝統的な形式は省略されつつも上座・下座がはっきり意識され、床面も剣道には適したものが設けられていた。

昭武館道場

所在地 : 東京都八王子市諏訪町  
 稽古場床面積 : 104.5 m<sup>2</sup>  
 床材 : ナラ（無垢材）  
 床下構造 : 束立て構造  
 一週間当たりの稽古回数 : 4 回  
 一回当たりの稽古時間 : 1～2 時間  
 稽古の平均参加人数 : 13 人（子どもの部）  
 19 人（大人の部）



※1 国際剣道連盟（Fédération Internationale de Kendo）  
 1970年に結成された国際組織。52の国と地域が参加（2012年4月現在）しており、3年に一度開催される世界剣道選手権大会の運営などを行う。FIKは非政治的な友好団体であり、剣道（居合道・杖道を含む）の国際的普及振興をはかり加盟団体相互の信頼と友情を培うことを目的としている。

※2 全日本剣道連盟  
 日本の伝統文化に培われた剣道、居合道及び杖道を各統轄する団体で、日本を代表する唯一のものとして、広く剣道等の普及振興、「剣の理法の修練による人間形成の道である」との剣道理念の実践等を図り、(中略)人材育成並びに地域社会の健全な発達及び国際相互理解の促進に寄与することを目的としている。(全剣連HPより抜粋)

※3 全日本剣道道場連盟  
 剣道の発展と健全なる青少年の育成を目的として、全国の営利道場（必ずしも営利を目的としない）を支援する財団法人。全日本少年剣道錬成大会及び全日本選抜少年剣道個人錬成大会の運営を行う

参考文献

1) 池田孝博：剣道場の床表面の塗装の有無による傷害・障害の発生と官能評価：福岡県立大学人間社会学部紀要：2011  
 2) 中田光：武徳殿の空間構成について：日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）：2013  
 3) 東京都剣道連盟：東京剣連だより 第75号：2014  
 4) 中村民雄：剣道場と神棚（1）：福島大学教育学部論集 社会科学部門 39：1986

5) 中村民雄：今、なぜ武道か：（財）日本武道館出版：2008  
 6) 前川峯雄：体育施設全書8 武道館：日本体育施設協会出版：1970  
 7) 橋本明雄：少年剣道指導に関する調査研究：東海大学紀要・体育学部 7：1977  
 8) 日本武道学会：剣道を知る事典：（株）東京堂出版：2009  
 ・Federation of international Kendo HP <http://www.kendo-fik.org/>  
 ・全日本剣道道場連盟 HP <http://www.zendoren.org/wordpress/>  
 ・全日本剣道連盟 HP <http://www.kendo.or.jp/>